



～旬な村人にインタビュー～

# 村人

今回のピックアップ村人は、

眞下太吉さん（大内沢・18歳）

本村の大内沢在住の眞下太吉さんは埼玉県立児玉高等学校に通っている高校3年生です。眞下さんは陸上部に所属し、種目は「競歩」を選択しています。まだめでたすぎるな性格から、日頃より練習を怠らず、全身全霊で競技に挑み、各種大会では優秀な成績をおさめています。そして、6月16日（日）に茨城県の笠松運動公園陸上競技場で開催された「関東高等学校陸上競技大会」に出場した結果、競歩5000mでみごと優勝し、インターハイへの切符をつかみました。本村から飛躍した眞下さんをピックアップします。



インターハイ出場を決めて思ったこと、感じたことを教えてください。

陸上を始めた頃は、県大会に出場できれば万々歳だな、という気持ちでいました。そんななか、関東大会に出場となったとき、プレッシャーによる緊張で体調が思わしくなく身体がうまく動かないような感じに襲われたりもしましたが、絶対にインターハイに出場したいという強い気持ちで挑みました。

「自分はこのように頑張ってきた」こと、勝因などを教えてください。

小学校2年生からスポーツ少年団の野球、中学ではバスケット部に所属していました。幼いころから体力・持久力を養い、中学の時に駅伝代表になったことをきっかけに陸上に興味を持ち、楽しさを知りました。私が過酷な練習を頑張ってきたのは、純粹に競歩が好きで、この部活が楽しかったからです。今になって思うと、自分の可能性を信じ、結果を気にせず継続することが大切だと思いました。

最後に、村の人たちへ伝えたいことをお聞かせください。

インターハイ出場の数日前、通学途中に自転車で転んでけがをしてしまった際、多くの村の方々に助けていただき、ありがとうございました。おかげで無事、インターハイに出場できました。改めて、この書面をお借りしお礼申し上げます。そして、自分は陸上が好きで頑張ってきた。皆さんも好きなきことを頑張ってください。頑張れば、いつか良いことがあると思います。



▶右の写真は、眞下さんの競技中の光景です。偶然にも背面に映り込む「栄光への道」、これは、眞下さんがまさに「青春、自らの希望」といった光の射す方（目標点）へ向かって懸命に歩む雄姿がうかがえます。

「絶え間ない努力をするのが僕の自慢です」と、笑顔で照れながら話してくれました。8月6日（火）に沖縄県のタピック県総ひやごんスタジアムで行われたインターハイでは惜しくも入賞を逃しましたが、その頑張りは間違いなく一等賞でした。眞下さんの今後の活躍に皆さんご期待ください！